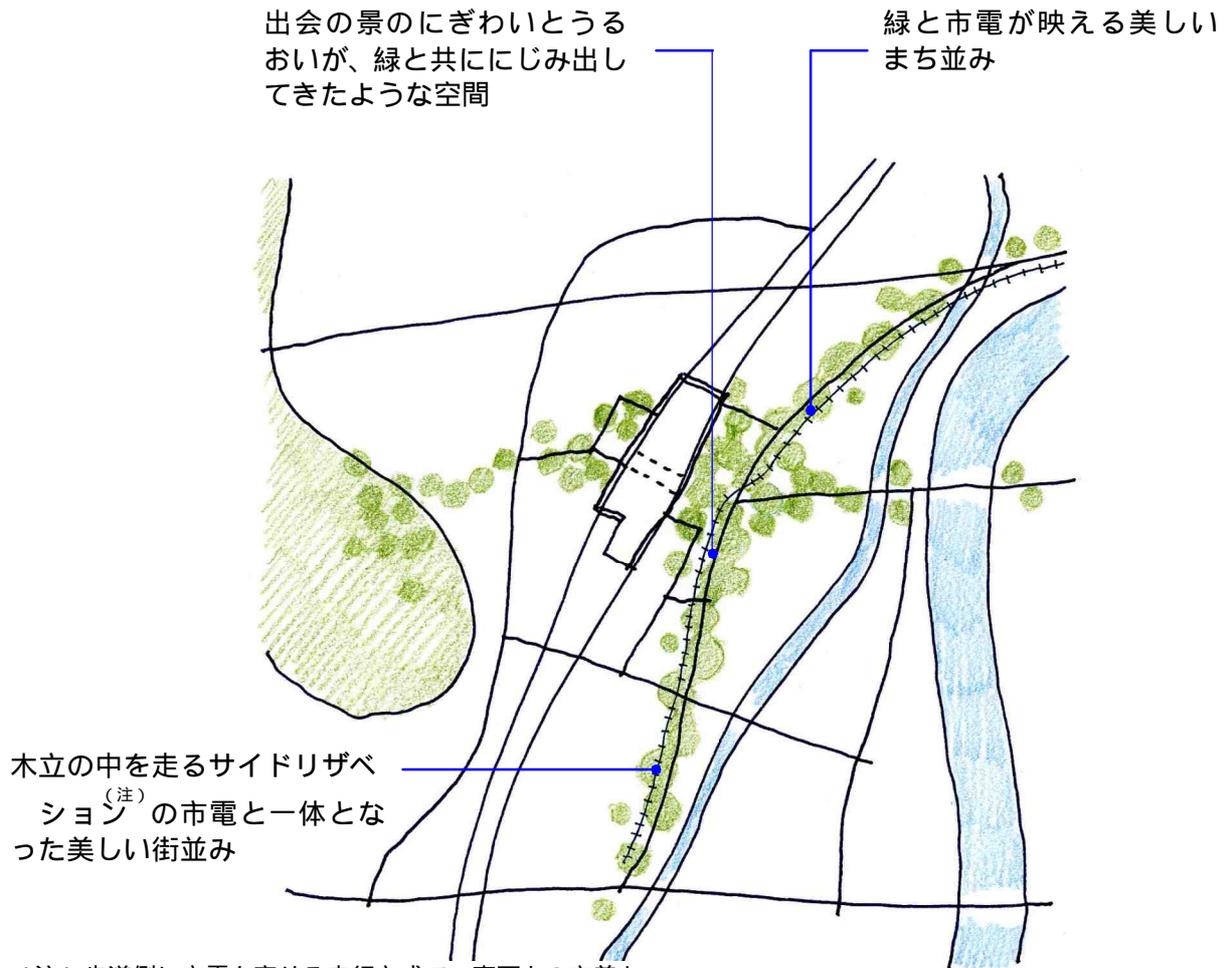


木立の景について、都市空間デザインのコンセプトを示します。

(1) コンセプト

私有空間と公共空間が一体となった、緑のまち並みの中を市電が走る、美しい空間を創出します。



(注) 歩道側に市電を寄せる走行方式で、車両との交差も
無くなり、より安全になります。

緑と市電と街並みの一体感

熊本を象徴する「緑」と「市電」の2つの特性を
活かして、木立の中を走る市電が心地よく映
える、美しい街並みを形成します。

快適な移動

都心へ向かう主要な動線として、人々の快適
な移動を確保します。

地域で創出する多彩な木立

公共空間だけでなく沿道敷地内の緑も連携し
て、多彩な木立や緑地を創出します。

にぎわい

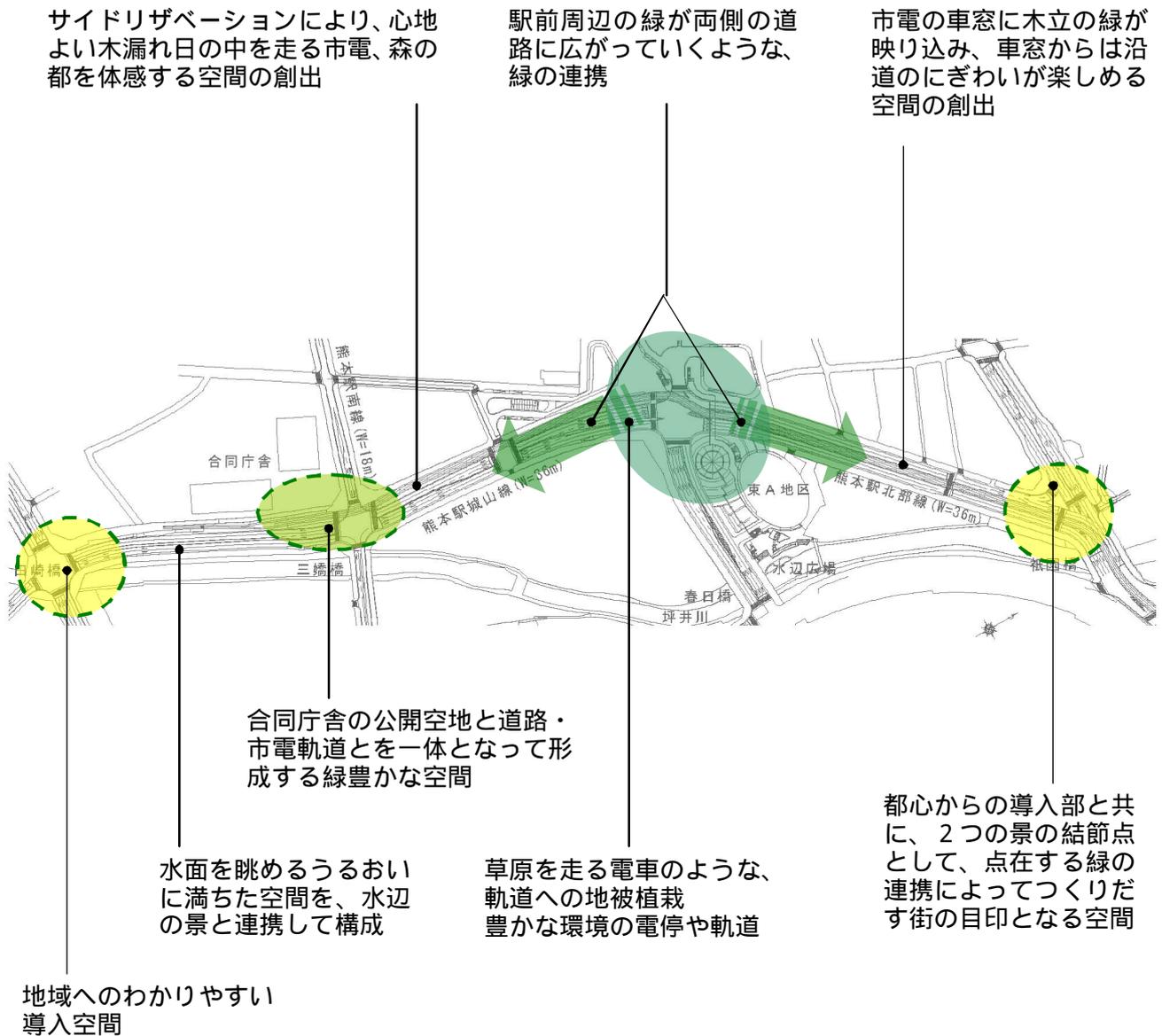
歩道と沿道の私有空間が一体となってにぎわ
いを演出・創出します。

木立の景について、都市空間デザインの考え方を平面的に示します。

(2) 空間の考え方

全体に共通するイメージを持ちつつ、導入部や電停部はその特徴を大切にする

田崎橋～合庁隣接部～合庁電停～駅前広場～祇園橋、全体として共通のイメージを大切にしながら、導入部と電停部の地点で周辺部との協調を工夫します。



木立の景について、沿道建物との関係の考え方を示します。

沿道の建築物との協調・連携を大切にする

歩道と沿道敷地とが連携して構成される一体的な空間が、都市のにぎわいとうるおいを感じられるように設えます。



軌道や歩道路面、公開空地に配置される緑は、それぞれがハッキリとしたエッジ(縁線)をもって区切られるのではなく、それぞれがにじみ出して連続するような関係を見せる緑化景観を形成。

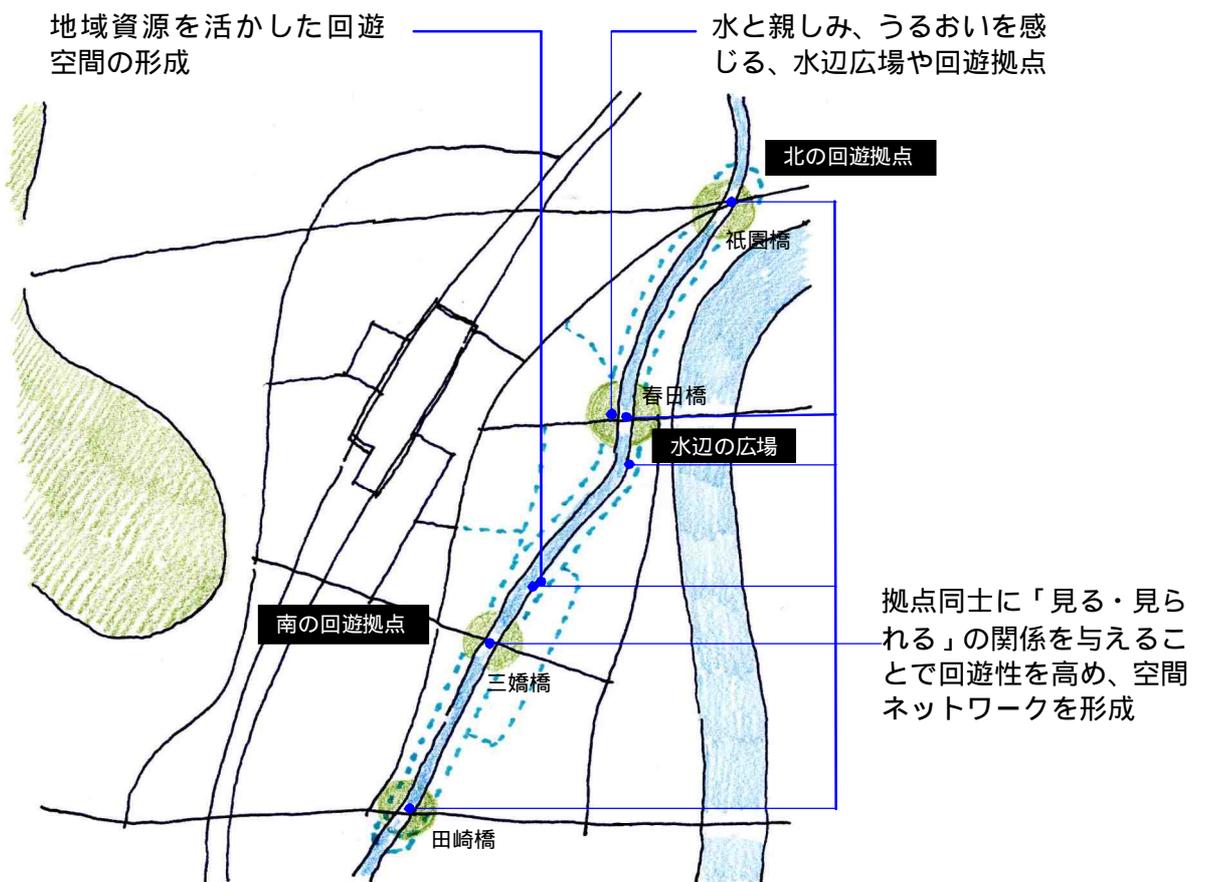
サイドリゼーションの断面イメージ

- ・屋外広告物の形態に配慮して、魅力的な市街地景観を形成します。
- ・沿道土地利用によって創出される出隅入隅の空間を活用して、緑化空間やタマリ空間の配置に努めます。
- ・沿道建物の低層部は、昼も夜も歩行者が街の楽しさや活気を感じるように、街のにぎわいづくりに配慮します。

水辺の景について、都市空間デザインのコンセプトを示します。

(1) コンセプト

地域の歴史資源を活かしつつ、田崎橋～水辺広場～祇園橋を結ぶ安全で変化に富んだ水際の回遊歩行空間を創出します。



回遊性

タマリ空間を設けつつ水辺の散策回遊空間を形成します。

安全

誰もが安全に回遊を楽しめる空間を形成します。

地域資源の活用

街の記憶を大切にするため、貴重な地域資源（水、樹木、緑、歴史的遺産）を積極的に活用した空間形成を図ります。

にぎわい

タマリ空間を活用して、水辺を楽しむ人々のにぎわいを演出すると共に、沿川については川側を表に見立てた開発を誘導します。

うるおい

季節の変化や安らぎとうるおいを感じる空間を形成します。

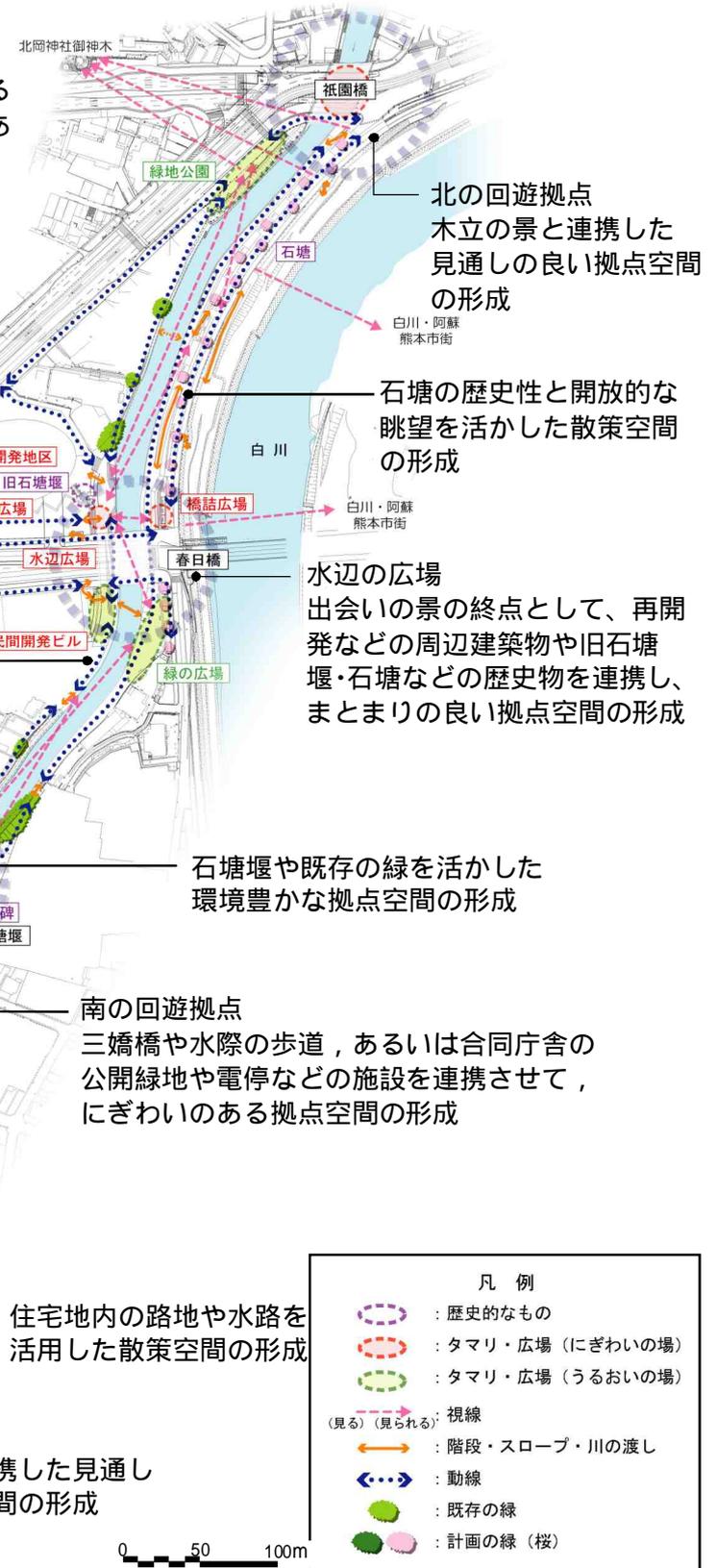
(2) 空間の考え方

水辺の景について、都市空間デザインの考え方を示します。

拠点同士に「見る・見られる」の関係を与えることで回遊性を高め、継ぎ目のない連続性のある空間ネットワークを形成します。

坪井川沿いの開発との連携による水際空間の形成誘導

緑豊かな水際空間を木立の景と連携して形成



北の回遊拠点
木立の景と連携した見通しの良い拠点空間の形成

石塘の歴史性と開放的な眺望を活かした散策空間の形成

水辺の広場
出会いの景の終点として、再開発などの周辺建築物や旧石塘堰・石塘などの歴史物を連携し、まとまりの良い拠点空間の形成

石塘堰や既存の緑を活かした環境豊かな拠点空間の形成

南の回遊拠点
三嬌橋や水際の歩道、あるいは合同庁舎の公開緑地や電停などの施設を連携させて、にぎわいのある拠点空間の形成

住宅地内の路地や水路を活用した散策空間の形成

木立の景と連携した見通しの良い拠点空間の形成

| 凡例 | |
|----|-------------------|
| | : 歴史的なもの |
| | : タマリ・広場 (にぎわいの場) |
| | : タマリ・広場 (うるおいの場) |
| | : 視線 (見る) (見られる) |
| | : 階段・スロープ・川の渡し |
| | : 動線 |
| | : 既存の緑 |
| | : 計画の緑 (桜) |

